ことば蔵で活動する皆さん=1階交流フロア

復 刊

とば蔵

市民とともに歩む

図書館がここに

ことば 周年

通巻 50

年3回発行

母丹市立図書館ことば蔵 〒664-0895 伊丹市宮ノ前3-7-4 伊丹市宮ノ前3-7-4

1 7 0

開館時には、名誉館長である田 情報発信機能、交流機能を持つ 誕生した。図書館機能に加えて

of the Year 2016大賞」を

評価され、平成28年、

な事業を生みだしてきたことが

校や企業とも連携した において、市民を中

ながら多様

心とし、学

囬を参照) 」

心を広めた点が評価された。

受賞。この賞は、先進的な活動

な図書館」をコンセプトとして れることができる「公園のよう

ことば蔵は、誰もが気軽に訪

平成24年、宮ノ前に移転した本 とば蔵」が開館10周年を迎えた。 館ことば蔵の誕生から10年の歩 7月1日、市立図書館本館「こ 伊丹公論編集委員会 書館を開設した。そして、同氏 吉氏(大阪医学校教授。現在の年、本紙創刊者である小林杖 寮」での収入を書籍の購入に充 は自らが運営する私塾「三余学 じ、現在の宮ノ前2丁目(みや てながら、図書を無料で貸し出 のまち4号館付近)に、私立図 大阪大学医学部)は、 ことば蔵開館を遡ること

私財を投

セージをいただいた。

田辺さんは残念ながら令和元

期的に開催される部活動となっ

生まれたイベントの中には、定

楽しさ、大切さについてのメッ 辺聖子さんから、読書と言葉の

を行っている図書館は

に対して毎

り、子どもから大人まで誰もが、え、システムの利便性向上を図

年贈られる賞だ。運

宮会議から

平成24年7月1日に開館した。 伊丹郷町の一角、宮ノ前の地で た教育者であった。 そして、ことば蔵は由緒ある

あった伊丹郷町は、文人墨客がその昔には、酒造の中心で

みを振り返る。

すなど、伊丹の教育の礎を築い

流イベントを実施してきた。

これまでの受賞歴

方が来館し、千70回を超える交んだ。これまで35万人を超える

新しい集いの場として10年を歩 そしてまちの活性化につながる 渡る学びの場、人を育てる場、 先人の思いを引き継ぎ、生涯に 年6月に逝去されたが、偉大な

芸ことそうし」がある。

令和2年1月には、第23回

図

学習コン

いたみアーカイ部」「

「いたみ文

ワークショップ」「カ た「ビブリオバトル」

「エボン部」

なる。また、インターネット上

表示させ、図書の貸出が可能と

マートフォンに図書館利用券を

し、図書館で借りた本の冊数ので利用者が目標読書冊数を登録

z i n e

宮ノ前に息づく学びの場

人が学び、交流する場

との交流が生まれる場でもある。

奇心を高める場であり、

、人と人

当館は、読書を通じて知的好

愛着の増進を目的として開催さ用促進に加え、郷土への関心と務大臣賞」を受賞。図書館の利

クールが13自治体の中から「総

クール」において、本 書館を使った調べる

市のコン

も繋がり、伊丹の歴史文化へのれ、市内施設や企業との連携に

が多くの本や人と出会い、にぎあってのことだ。今後も皆さんは、読者を含む皆さんの支え

は、読者を含む皆さんの支え当館が10年目を迎えられたの

毎月開催している「交流フロア

薫りの高い町としても栄えた。 集い、俳諧をたしなみ、文化の

of the Year 2016大賞」 した結果、平成28年には「Library 業や学校・企業と連携した事業 様が中心となって企画された事 を開催して多彩な交流を生み出 だきました。 本に出会うとともに、市民の皆 また、来館者の皆様が多くの

ました開館記念式典において、

平成24年7月1日に執り行い

を迎えました。

本年、ことば蔵が開館10周年

のことのように思い出されます。 のお言葉を頂いたことが、昨日 言葉の楽しさ、大切さについて 故田辺聖子名誉館長より読書と

ことば蔵は、

「公園のような

受賞することができました。こ

れは偏に市民の皆様の主体的で

藤原 保幸 市長あ いさつ

伊丹市長

の念に堪えません。 自由な発想の賜物であると感謝 今後も、ことば蔵が市民の皆

図書館」をコンセプトに、

20 万

のまちの更なる活性化に資す を育てる場として機能し、伊丹 を目指してまいりますので、 る、魅力ある図書館となること 様の生涯にわたる学びの場・人

基本として、これまでに延べ350体感できる機能の3つの機能を

万人を超える方々にご来館

クール」における総務大臣賞受 令和元年度「調べる学習コン

the Year 2016大賞」や、

こうした活動が、「Library of

丹郷町」の歴史・文化を発信・ 語り合い、学べる交流機能、「伊

書館機能、人と人とがふれあい、 人都市にふさわしい今日的な図

> まで様々な年代の人が、知識や の実現に向け、ことば蔵を活用 探究を深めるとともに、その学 持ちでいっぱいです。 くの市民の皆さまには感謝の気 し、学び、集っていただいた多 ことば蔵は、子どもから大人



びをアウトプットしながら、 ました。 きる多様な学びの場となってき と人とが言葉を交わすことので

伊丹市 教育長 木下 誠 教育長あい

ればなりません。

います。 の場であり続けること べる拠点施設として末 くの人が集い、楽しみ これからも、 一愛されるとともに、 、ことば 小永く市民 ながら学るがら学 を願って 人づくり

ました。「公園のような図書館」 ことば蔵が開館10周年を迎え 分の頭で考え、判断し、 を送ることのできる力 尊重し、様々な人と協 言葉で表現する力や、 ことであり、そのため 適合し、自分らしく幸 に繋がったのだと思い 賞など、全国的にも誇 くことのできる力を育 教育の目的は、時代 ルをつける 成しなけい 多様性を いには、自分の 中せな人生 にや社会に ます。 れる評価

さつ

~図書館の歩み~

昭和18年:同図書館閉館

昭和47年:市立図書館が千僧に移転

マイクロ・ライブラリーアワード」受賞 平成28年:「Library of the Year 2016 大賞」受賞

令和 2年 :調べる学習コンクール「総務大臣賞」受賞 4年:開館10周年

明治45年:小林杖吉氏が私立図書館を宮ノ前に開設

平成24年: 7月1日「ことば蔵」が宮ノ前に開館 平成26年:「子どもの読書活動優秀実践図書館」受賞

昭和26年:市立図書館が伊丹相生町(現行基町)に開館

伊丹市立図書館

館を目指していく。

わいを生む、より魅力的な図書

ことば蔵

て欲しい。

導入されるので、

ぜひとも使っ

ながら読書意欲を高める機能も

新しい図書館システムが稼働す

老朽化の進む機器を入れ替

チャレンジ機能」など、楽しみ進捗状況を確認できる「読書し、図書館で借りた本の冊数の 「郷土研究伊丹公論」は、私立伊丹図書館を開設した小林杖吉(筆名「丹城」)が、昭和11年(1936)1月20日に創刊し、19号まで発行された地域紙。ことば蔵では、伊丹公論を73年ぶりに復刊し、伊丹の歴史・文化を全国に発信するため、市民と共に発行しています。

う環境を整備した。例えば、ス

楽しみながら読書に親しめるよ

と意見を交わし、アイデアを出 みたいことを持ち寄り、参加者 ア運営会議」は、自分がやって していくかを考える場です。 し合いながら、どのように実現 誰でも参加自由な「交流フロ

を取り入れ、より魅力的な企画

参加者からの前向きなアイデア

せ、チラシを作成③イベントの

に②実施に向けて内容等を打合

から10年。

実施④翌月の運営会議で報告。」

いう流れとなります。

営会議で企画書をもとに発案

アイデアを気軽に実現 程度が参加されています。ざっ くばらんで楽しい雰囲気のなか、 年齢の方々が集まり、毎回15名変わりますが、10代から幅広い会議での顔ぶれはその時々で

新たな企画が次々に事業へと生 まれ変わります。 てもらいたいことがある方は、 何かやってみたいこと、知っ

交流フロア運

自由で、交流フロアというオー 企画するイベントのテーマは

ブンな場所で開催でき、読書や

加するだけでも楽しめますよ。

ぜひ会議にご参加ください。参

of the Year 2016の大賞を な存在となりました。Library

受賞した、

横浜での最終選考会

ち 伊丹」 にふさわし

い、大き

【運営会議】毎月第1水曜日の

当館1階の交流

指しています。 ことば」に関連するものを目 「①運

フロアで30分から、

企画から実現までは、

.館前にことば蔵の交流フロ では毎回バトラーの調整が大変 市外への拡がり等により、最近 部員の増加、市内学生への普及、 う10年になるんですね! として隔月でスタートして、 な程に賑わってきています。 部長さんや部員達の頑張り、

本を知り、人を知

新しい本を知るきっかけになり と本当に感謝しています。 が発表したくなりますよ! 来て下さい。きっと次はあなた 本を通して様々な人が出会い、 ビブリオバトルを開催する事で、 興味を持ったら、まずは見に 図書館という開かれた場所で 部員も随時募集中です。

添えを頂き、ことば蔵の部活動 普及委員会の吉野さんのお力 (ビブリオバトル部

入れて頂きました。その時、 アで何をするか考えるチームに

刊

復

ビブリオバトル

る知的書評合戦です。 観客の投票でチャンプ本が決ま の本の魅力を5分間で紹介し、 表者(バトラー)がお気に入り ビブリオバトルとは数人の発 っかく図書館で開催するなら、

当時流行り始めていたビブリオ 本に関わるイベントをしようと トルを導入しました。

> のは、ことば蔵スタッフさん達 縁の下のサポートのおかげだ なんとかここまで継続できた

ことば蔵を支える 多彩な活動

市民が主役の図書館

きる交流機能が新しく備 あい・語り合い・学ぶことので ペースを設け、人と人とがふれ加えて、1階に大きなフリース 同会議から生まれた市民企画

の前身である。 行われる「交流フロア運営会議 も毎月第1水曜の18時30分から べきか、市民参加による会議が 定期的に開かれた。これが現在 広い交流スペースをどう活用す 開館の数ケ月前から、1階の

ープも多い。

館のホームページや、毎月の「交流の場となっている。詳細は当 る部活動となったイベントもあ ねるうちに、定期的に開催され 流フロアイベント案内」を参 民主体のイベントを通じて、交 る。このように、ことば蔵は市 岐にわたる。なかには回数を重

を迎えるにあたっての思いや活

部活動などの方々に開館10周年 蔵を支えてきたボランティアや

本紙の2・3面では、ことば

ップや演奏会等、ジャンルも多

また、修理ボランティアや、

イベントは、工作のワークショ

動内容、イベントの魅力を語っ

一交流フロア運営会議の誕生

館するにあたり、

平成24年7月、

ことば蔵が開 図書館機能に

■ボランティアの皆さん

ことば蔵は、おはなし会での

という名称で移転オープンして うコンセプトのもと「ことば蔵」 「公園のような図書館」とい 「酒と文化の薫るま 思い出深いです。 に友人と出向いたことはとても 市民企画として開館当初から

です。

そのようなzineを図書館

めて50年ほどになりま

は、

旧図書館から

活動を初

音訳ボランティア

グループ

志でダメ出ししたり、

励ま

私たちは、視覚障

がい者の

を聞いてくださる利用者の方が

いると思うと力が湧きます。

す。そして、何より私たちの声 合ったりする時間が有意義で

という、

ツールであることが大きな特長

行ってきたzineのワーク 雑誌のマガジンや同人誌の呼び ショップも子どもから高齢の方 ただきました。zineとは、 まで幅広い世代の方々に参加い

> 新聞等から季節の話題 方々に「声の歳時記

音訳した90分

ほどのC や小説等

大からのリクエストで「岩佐又 2020年8月に、利用者の

私」の世界が広がる zine、ことば蔵

zine ワークショッフ

部数もすべて自由で、誰でも簡 ります。テーマも形も作り方も と、そしてコミュニケーション 単にスピーディー発行できるこ 自分だけのオリジナル冊子を創 章などを自由にレイアウトして が由来です。写真や絵、詩や文 方ファンジンの語尾(zine)

0)

館運営をサポートしているグル 移転する前から、40年近く図書 立っている。図書館が宮ノ前に 図書の修理など様々なボランテ 人形劇、視覚に障がいのある方読み聞かせやおたのしみ会での ィアの皆さんの力によって成り ?けの対面朗読・音訳・点訳、

毎月の「ぎょうじあんない」にる。日時や対象年齢等の詳細は 対象としており、英語や大人向 おはなし会は、 のおはなし会も開催してい 様々な年齢を

まで。 いてのお問い合わせはことば蔵 動は、より多くの人が読書を楽 音訳、点訳のボランティアの活 の支えとなっている。 しめる図書館であり続けるため 各ボランティア、 部活動につ

交流事業·貸室☎72·783·2775

ば蔵を訪れ、それぞれの「私」 を感じられるのがzine、 が広がる、そんな色んな可能性 終わるのではなく「私」の世界生まれる、「私」だけの世界で 作ったzineを通して交流が 界で一冊だけの私の本」を作る、 本との出会いだけではなく、「世 で作る、作ったzi 願っています。 して「ことば蔵」の魅力です。 ても有意義だと思っています。 読んでくれるといったことがと 館に並ぶ、自分の知らない人が 次の10年も、多くの人がこと 世界が広がっていくことを

鹿嶋

聞きやすさに加えて、

文章の意

作品の良さが伝わ

っている

きやすいものにしていきます。

声の歳時記・広報伊丹をより聞 勉強会を開いて学んでいます。 ことの大切さを知り、積極的に

が楽しいんです。

メ

、ンバー同

(グループ声代表

満田

順子)

毎回悩みます。でも、この悩

乞ご期待!

していますが、声の歳時記は、

た。その他、

広報伊丹も音訳を て届け

Dを毎月図書館

てきまし

これを機にさらに力をつける

ました。

孝子)

おはなしかご

回7月に、「わくわく 的室2で手遊びや紙芝 ランド」と称して、 ての、幼児のおはなし 部屋で絵本の読み聞か おはなしかご」は、 おはなし)会。 年 1 居を入れ とせ、多目 行事の

グル・

より聞きやすい

でに1年もかかり、力不足を痛 することになりました。完成ま 兵衛」(全31ページ)の音訳を

感しましたが、最後までやり通

ものを届けたい

せたことは、とても勉強になり

53年に発足し、旧図書 読み聞かせグループと していましたが、こと 「おはなしかご」は、 早や10年を迎えました。 に蔵に移 |館で活動 して昭和の幼児の

となが愉しむおはなし会」も行 の絵本を読むか、何をするかを ひ癒しの一時を愉しみに来てい 平成26年3月から、年4回、「お 夏休みのイベントとしています。 っています。大人の方には、ぜ トやエプロンシアター等を行 ただきたいです。 私たちは行事にあたって、

絵本は大人も子どもも 心に残る

練習をします。その過程も楽し を楽しんでいる姿を見ることも いですが、子どもたちが、お話 色々検討し、話し合って決めて

で、 れることを願っています。 て、これからも発展し続けてく ことば蔵は、幼児から大人ま 、おはなしかご 松林 様々な催しができる場とし

ことば蔵 伊丹市立図書館

執筆まで行うのは厳しいね」「P

C操作が苦手な人でも 一緒に楽

めたらいいのにね」という反

調査し、ウィキペディアの記事 ベント当日に伊丹の街を歩いて キペディアタウン」でした。イ

に反映させましたが、「1日で

を迎えました。

この活動で文章作りに目覚め

5月の活動日で、ちょうど6年 2土曜日に開催しており、今年 続しました。現在は奇数月の第

自作の文章を持ち寄り、みんな してより良い文章に仕上げる文 で読み合い、感想や意見を交わ いたみ文芸ことそうし」は

芸サークルです。

最初は「文芸同人誌をつくろ

すのでご覧下さい。

を配布

り、図書館1階に展示していま 寄った作品は、作品集として綴 た方もいて、イベントで持ち

芸ことそうし」として活動を継 う希望が出たので、「いたみ文 参加者から活動を続けたいとい を仕上げるイベントでしたが、 14日に始まり、全3回で同人誌

う」という名で2016年5月

新たな参加者をお待ちしていま ことば蔵の名に恥じない、こ

とばを大切にする活動を続けて いきたいです。

細尾 哲也)

元は文芸同人誌を つくろうから

公募企画「リレー小説」を開催 ことば蔵開館10周年に合わせて します。文章作りに興味のある 現在は4人で活動しており、

などの項目)にしています。ディアの記事(昆陽井や加茂井冊子にまとめたり、ウィキペ した。「次は何を調べよう?」 写真を持ち寄って皆で検討し、 文献を調べ、各人が得た情報や と相談し、 省から、現在の活動が生まれま 時間をかけて現地や

まとめて、後世に残そう!」

ح

いう活動を毎月ことば蔵で継続

7年から「伊丹のことを調べて、

いたみアーカイ部は、201

復 刊

しています。

数回ことば蔵で開催した「ウィ

きっかけは2015年から複

ことば蔵の機能を 使いつくそう

頼性を保つために、

ことば蔵の

現地見学の下調べや記述の信

を実施します。 蔵書をおおいに活用し、 方の参加も募って楽しい街歩き 般の

カエボン

皆さんも参加してみませんか。 丹の生活」を再発見する活動に ことば蔵を活用して「昭和の伊 丹の市場」の調査を始めます。 今月からは新しいテーマ「伊

M i y a

ち寄ったアイデアを実現するた

公園のような図書館で、

ていた時期だったように思いま

八との出会いを楽しもう

皆さんとの交流や協働について て、これからことば蔵と市民

の開館10周年の記念イベントの ここでは、図書館「ことば蔵」 みんなの寺子屋

記念ブックカバー・ステッカー 部を紹介する。 どもから大人まで誰もが先生と なことについて授業をする「み なり、自分の得意なことや好き 7月23日 (土) 11時から、子

布する (先着各千枚)。 ブック で、ステッカーは2階カウンタ カバーは各フロアのカウンター ブックカバーとステッカーを配 ーで受け取れる。 7月1日から、来館者へ記念 は、事前申込みが必要。授業を行う。各授業への参加に を含む9組の先生が個性豊かな んなの寺子屋」を開催。子ども

オープニングイベント

語会を開催する。 語家の虎乃家光甲さんによる落 とば蔵で落語会。アマチュア落 7月2日 (土) 14時から、 ح

ことば蔵でバルーンアートショ バルーン体験会を楽しめる。トショーの後は、先着10名まで ーを開催。ふわふわアート・チ 7月3日(日)13時30分から、 リーさんによるバルーンアー

考える~市民と創る交流の場~」 講演会「これからの図書館を

切さや愉しみ方、絵本作り等に

を手掛けた永田さんに読書の大

ついてお話しいただく。

られている。数々の絵本の挿絵

キャラクター制作者としても知

る嶋田学さんによる講演会を開長(現・京都橘大学教授)であ山県・瀬戸内市民図書館の元館 図書館運営等が評価され、れる市民参加型の会議を通じた催。同館は、もみわ広場と呼ば 図書館運営に関するお話を通じ賞。本講演会では、嶋田さんの で大賞とオーディエンス賞を受 Library of the Year 2017 8月21日 (日) 14時から、 岡

は、当館ホームページ(QRコ

お問い合せはこ

周年記念イベントの詳

とば蔵まで。 ード)を参照。

私はまだ会社員で、働き方を見 ことば蔵に通い始めた当時、

つめ直す、転機、に差し掛かっ

大好きな『本』について 語りあう場に

初は本の寄贈を募るために、月 交換(カエボン)でき、利用者 ることで他の人のおすすめ本と まった人に紹介して、 持ち寄ってもらった本を、集 に一度、決めたテーマに沿って どうしの交流が楽しめます。当 てカエボン棚という本棚に並べ

なっていくのにワクワクし、自 りたい』が一つひとつカタチに を練りました。 分も何かできるならとアイデア の『運営会議』で、皆の P らず、本を紹介し合う

たが、現在は『寄贈』にこだわ

『読書会』

演会だけあって、中国地方、四からの支持が熱い河野先生の講

したが、YA世代である中高生 した。中高生を対象に実施しま テーマとした講演会を開催しま 「魅力的な文章を書くコツ」 を

河野裕先生をお呼び

国地方からも中高生が参加して

くれました。

イベントの企画、

準備などを

棚に寄贈していただいていまし

10 周年記念 イベントの 詳細はこちら

すすめしたい本に推薦帯を巻 「カエボン」とは、自分がお 間に過ぎます。 ジャンルとの出会いがあり、な 毎 になっています。 いてお話する時間はあっという により皆さんと大好きな本につ エーションは豊かで、新し やりかたは変わりましたが、 回、持ち寄られる本のバリ

です。ぜひお気軽にご参加くだ話を聞きにくるだけでも大丈夫 もハードルはかなり低いです。 が固定化しつつあることです。 ここ最近の悩みは、メンバー 般的な『読書会』と比較して

ツアー等これまで様々 2回、楽しく活動して 力的な図書館」を目指 YA会議では、 講演 います。 して、月

ナーの所蔵本の選書やイベント 志の高校生、「YAスタッフ」 ナー)は、市内在住・ によって運営されており、コー けコーナー 企画等を、 ことば蔵2階にある 学校や学年を超えて、 (通称: Y A I 中高生向 在学の有



他校の生徒と 本を通じた交流

ます。10周年を迎える今年も、 イベントを開催する予定ですの なかった世界を知る機会になり 魅力の一つであり、自分の知ら 交流できることは、YA会議の まにか友人に…。他校の生徒と から趣味の話に発展し、いつの 緒に活動するなかで、本の話

国内外を問わず広く親しまれて

独特の「花と妖精」の世界は、

で美しい色彩から生み出される

を開催予定。永田さんの、豊か 演会「心を彩る読書(仮題)」 絵本作家である永田萠さんの講

今年12月、イラストレーター・

永田萠さんの講演会

ょうごっ子ココロンカード」のいる。兵庫県で配布される「ひ

主な10周年記念イベント	
日 程	イベント名
7月1日(金) から	記念ブックカバー・ステッカー配布 配布場所 ブックカバー:1・2・3階カウンター ステッカー:2階カウンター
7月2日 (土) 14時から	ことば蔵で落語会 出演:虎乃家光甲さん
7月3日(日) 13時30分から	ことば蔵でバルーンアートショー 出演:ふわふわアート・チェリーさん
7月23日(土) 11時から	みんなの寺子屋 子どもから大人の先生が授業をします
7月24日(日) 14時から	ビブリオバトル 特別企画 令和の歴代チャンプに挑戦! テーマ「ことば」
8月4日(木) 10時30分から	絵日記を書きたくなる音楽会 出演:アンサンブル和奏さん
8月21日(日) 14時から	これからの図書館を考える~市民と創る交流の場~ 講師:嶋田学さん
12月予定	心を彩る読書(仮題) 講師:永田萠さん

Aスタッフ

って、魅

行ってきました。今年3月にも、 『いなくなれ、群青』 会、館内 な企画を

ぜひお気軽にご参加くださ

同世代の人たちにと

三数 由希子)

(古書店主

もうらす

きょう

とうどかの

古古

ほう

エユ

災重 受賞者決まる 自館公募イベン

伊

丹 歌

壇

(「玲瓏」選者編集委員。 神戸新聞

文芸短歌選者。現代歌人協会会員

「仕事」尾崎まゆみ

選

しおりんピック

協会代表幹事の北里桂一さんの の応募があり、画家で市芸術家 兵庫県神戸市の高橋彩さんしおりんピック」の金メダルに、 おりの出来栄えを競う「第8回 (41) を選んだ。全国から26点 ことば蔵はこのほど、 本のし

> 来館者による投票でことば蔵賞 が選ばれた。 審査により金・銀・銅メダルが、

をいただけるとは思いもしませ 以来だったのですが、こんな賞 は「水彩画を描いたのが小学校 いと思います。ありがとうござ んでした。また来年も応募した 金メダルを受賞した高橋さん

を語った。 いました。」と喜び

子市の久保聡美さ賞した東京都八王 蔵についても知る たくさんのデザイ ベントを通して、 思います。しおり を本当にうれしく 敵な作品のなかで、 市や図書館ことば ンとともに、伊丹 んピックというイ でいただけたこと ことば蔵賞に選ん んは「数多くの素

良かったです。オ ことができたので ンラインで表彰式

復 刊

> と話してくれた。 て、ありがとうございました。」

市の木下重美さん ▽銀メダル=東京都江東区の 銀メダル=東京都江東区の 他の入賞者は次のとおり。 越田た

として、例えば趣味などを楽しんでいる姿が見えて来てなんだい切りが良い。定時で上がった後、「人材」ではなく一人の人間

繊細な感覚も素敵だが「定時で上がる」

の言

れそう。

切ない心情や、

必要な人材ぢやないわたくしは

透きとほりつつ定時で上がる

芍薬(千葉県千葉市)

帯ワングランプリ

のいけがみたいぞうさん(48) 江口尚子さん、東京都江戸川区 喜多桜太さん(松崎中1年)、 の稲垣紗良さん(松崎中3年)、 崎中3年)が選ばれた。 は、伊丹市の枡本瑛雄さん(松の投票で決定することば蔵賞に の作品を選んだ。また、来館者 を競う「第9回帯ワングランプ | 「稲垣紗良さん(松崎中3年)、| 「の伊丹本屋大賞に、伊丹市

夏っぽさを表現しました。受賞 学3年のときに作った作品で、 ら40点の応募があり、伊丹本屋 できてうれしいです。」と話 大賞を受賞した稲垣さんは「中 帯ワングランプリには全国

※各受賞者の年齢は応募当時 もの。

銀メダル(上)

銅メダル(右) ことば蔵賞(下)

も設けてくださっ

金メダル (左)

できて ことば高か

とれないまり

私生式なな

地もたくも

ない時を

長かだ人も

Hill Hard III

次の日また ことは概で

この9年が

金によ

ない。これで オトナそすく しおりんピック受賞作品

かホッとする。

仕事欄に「無職」と書けば居心地がわるく「なし」とすなしが仕事だ

自作の「本の帯」の出来栄え

ことば蔵賞を受

ことば蔵10周年に寄せて

れからもずっとずっと

林やよい

出会以と

本とる

伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラスト エッセイ「くるまいすまいる」連載中。 本紙「伊丹公論」では復刊第1号から連載中

けがえのないものです。 わります。そのうれしさは、 いの短い時間が、絵本のお陰で ほんとうに彩り豊かな時間に変

ます。1冊10分かからないぐら 声に出して読みます。私が子ど うことを教えてもらったりもし た事に再会したり、この機会が もの頃読んですっかり忘れてい なければ一生知らなかっただろ 娘を膝に載せ、絵本を開き、

伊丹緑道につながっているとい れている猪名野神社の前にあ う場所もすてきです。ことば蔵 昔から地元の人たちに親しま 館を出てゆるゆる行くと、

ない娘の、大切な友人です。 は私と、脳性まひで言葉を話さ りるのはほぼ、絵本です。絵本 蔵のお世話になっています。借 週に1度のペースで、ことば

番の過ごし方です。

節ごとの樹々や草花

を楽しむ、

車いすを押しながら、

緑道の季

というのが、私と娘

休日の定

んとうに寂しく、再開したとき策で、一時閉館になった時はほ を感じています。 だいていることには、 はほんとうにうれし ンジョー先生」を描かせていた る「伊丹公論」に4コ す。ことば蔵とともに歩んでい ことば蔵が今後と 新型コロナウイルス感染症対 マ漫画「タ かったで もずっと 深いご縁

所であり続けてくれ ずっと、いろいろな状況にある いろいろな人たちを、 心から願っています。 に迎え入れてくれる、 (はやし ることを、 おおらか 幸せな場 やよい)

か

ます。

作ってみませんか?あなたも本紙を

話題の人やお店等を掲載してい 史・文化に関するトピックスや、 掲載する記事は伊丹の郷土・歴 31号 (通巻第50号) となります。 の手作りで復刊させ、今号が第 郷土研究「伊丹公論」を市民と る小林杖吉氏の遺志を引継ぎ、 ことば蔵では本紙創刊者であ

良かったら一緒に本紙を作って がら楽しい雰囲気の中、紙面を みませんか? 緒に作ります。読者の皆様も、 編集を市民の皆さんと考えな 取材から、原稿の執筆や紙面

【伊丹公論編集会議】

月に一度、火曜日の18時30分

当館1階の交流フロアで

ことば蔵 伊丹市立図書館

伊 丹 俳 壇

「噴水」坪内稔典 市立伊丹ミュージアム名誉館長) 選

噴水の水は光 濡れている 井上

鈴野(東京都東大和市)

だけを言ったシンプ 「光に濡れてゐる」 ルな表現も。 ルな表現も。噴水のそばに立ったら人も濡という見方がとってもよい。しかもその事

噴水のなかで時間が惑乱す 噴水や実はわたくし 噴水の広場の犬の 噴水へ子らを放ちて 噴水や北東に恐竜 つつましさ 小半日 の骨 魔女だった 平 きみえ (伊丹市) 伊賀 豊子 (川西市) 睦月くらげ(埼玉県新座市) 紀彦 (滋賀県高島市) 卓(東京都世田谷区)

とします。 は図書券千円を進呈 に限る。応募締切は8月15日(必着)。最優秀賞に 次回の兼題は、俳壇 応募は1 からも応募できる。問い合わ。下のQRコードを利用する 人各1作品、自作未発表作品は「秋刀魚」、歌壇は「遊園地」

難破船傾斜角度は四十度現場調査の海は大時化

日の仕事を終えて空見上ぐこの安堵感兵士たちにも

一代(神戸市)

ホワイトカラー何でも合わせられるから今日はお好み焼き定食で

真央 (神戸市)

まるで薔薇園仕事中毒の症状 Flower flies like life.

野上

卓(東京都世田谷区)

(ハナアブ科は生命を好む/人生のように花は飛ぶ)

田中 大貴 (伊丹市)

せは、ことば蔵へ。